

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	住宅販売会社（経営者）	・今まで具体的に考えていなかった客が、徐々に動き出し、契約、着工等の打ち合わせに入ってきている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・4月から学校が週5日制になるため、野外活動的なスポーツも盛んになり、やや良くなる。
		家電量販店（店長）	・客に、商品を購入しようという雰囲気を感じられるようになってきている。あとは、店舗の接客力、商品力次第である。景気は上向いてくる。
		乗用車販売店（営業担当）	・既存の客に加え、新規の客との商談、問い合わせが出てきている。
		乗用車販売店（営業担当）	・決算期が終わっても、新型車の投入があり、来客数の増加が見込まれる。
		スナック（経営者）	・まとまった宴会の動きが良く、フリー客が悪い。先々の様子が良くなってきているので、今よりは良くなっていく。
		遊園地（職員）	・動きが鈍い団体客にも、新アトラクション効果が徐々に浸透すると期待できる。
変わらない	一般小売店〔青果〕（店長）	・昨年度中に、対前年比で80%後半から90%台で推移していた売上は、2、3月には70%台に落ち込んでいる。しばらくはこのような実績で推移する。	
	百貨店（営業担当）	・客の商品選択の慎重さは、今後も続く。	
	スーパー（経営者）	・先行き不安から、消費者が自己防衛に走る状況は今後も変わらない。	
	スーパー（経営者）	・狂牛病の影響は、徐々に落ち着いてきているものの、相変わらず必要以上の買物がなく、客単価の低下はまだ続く。	
	スーパー（副店長）	・特売の日には売れるが、それ以外の日は落ち込み、反動が激しい。売れ筋商品も以前よりは売れず、客の目的買いの傾向は強い。何かきっかけがないと、購買意欲は高まらない。	
	スーパー（経営企画担当）	・業界の競争の度合いは、依然として変わらない。個人消費が伸びるには時間がかかるので、この状況が続く。	
	コンビニ（経営者）	・ワールドカップ関連に連動する店舗では特需があるが、その他の店舗では、関連商品が若干売れる程度で、その他の商品が売れず、相殺して変わらない。	
	コンビニ（店長）	・客は、特別お金に困っているのではなく、必要でない物は買わない、必要な物は買う状況が続いているだけである。その状況は今後も変わらない。	
	家電量販店（店長）	・昨年はリサイクル法の関係で、売上は3月までは良く、4月以降落ち込んだ。今年の4月以降が、対前年比で良くなっているようにみえても、総じて売上は悪いことに変わりはない。	
	一般レストラン（経営者）	・宴会予約は昨年並みだが、客単価が上昇しない分、期待するほど売上は伸びない。	
	観光型ホテル（経営者）	・来客数の増加する要素がない。	
	旅行代理店（従業員）	・個人の海外旅行は、年明けから販売量が伸びている。国内旅行は減少傾向にある。	
	旅行代理店（従業員）	・ワールドカップの見込受注もそれほどなく、来客数、客の様子から考えても、例年と変わらない。	
	通信会社（社員）	・携帯電話市場の成熟化に伴い、これまでのような右肩上がりの伸びは期待できないが、インターネットの普及に伴い、データ通信料は伸びていく。	
	観光名所（職員）	・当面、レストラン、ホテル等の来客数の増加が期待できない。	
	美容室（店長）	・景気が上向く要素が何もみえず、このままの悪い状態が続く。	
	設計事務所（所長）	・現在の受注高、客の様子から判断すると、2、3か月では変わらない。	
やや悪くなる	スーパー（統括）	・高い失業率、ベアゼロ回答など雇用情勢が非常に厳しく、将来の不安から、個人消費の冷え込みはしばらく続く。	
	衣料品専門店（店長）	・所得は増加するよりやや減少していく状況であり、3か月後は更なる買い控えが進む。	
	衣料品専門店（販売担当）	・ペイオフ解禁による金融機関への不安から、ハウス預金等が増加し、消費行動には全く向かわない。今後、徐々に悪くなっていく。	
	乗用車販売店（従業員）	・ベアゼロ回答の企業が多いため、高額車がますます売れなくなり、代替時期も延びる。	

		乗用車販売店（販売担当）	・客はペイオフ解禁等にかなり振り回され、全体的に外国車が伸び悩んでおり、今後はやや悪くなる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・売価が決定し、その価格で販売を開始する4月からは、値上げは不可能に近い状況である。
		観光型ホテル（スタッフ）	・宴会、宿泊予約が減少する。
		都市型ホテル（経営者）	・客単価はますます低下している。来客数も、当ホテルだけでなく、業界全体で減少しており、将来に期待ができない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・2、3か月先の婚礼、宴会の入り込みがあまり良くない。
		タクシー運転手	・運転手が増加しているため、仕事が回ってくる機会が減少する。
		ゴルフ場（支配人）	・近隣の低料金コースの影響で、4月のプレ・料金は低下傾向にあり、その分予約数は確保している。GWの予約は少ない。
		設計事務所（所長）	・現在は、小さい物件の仕事が多く、忙しいが、3か月後の受注の目安が立っていない。
	悪くなる	商店街（代表者）	・学生、特に高校生、大学生を中心に、以前は1～2万円の物でも売っていたスニーカーが、最近は親からの小遣いが少ないのが、特価品しか売れない。
		コンビニ（店長）	・近隣で改装したスーパーに追随して、他のディスカウントスーパーが安売り競争を展開してくるので、その影響を受けて間違いなく悪くなる。
企業 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・在庫調整がほぼ終わり、顧客から問い合わせを受けても、自分の店にも、卸屋にも在庫がない状況である。在庫を増やしたくない卸商の一部では、小売店をあてにしない大展示会中心の受注方式へ転換するなど、商売形態を変えている店もある。
		輸送業（営業担当）	・新規受注の増加が見込まれる。取引先の統合やセンター化で、コスト面で効率が良くなる。
		金融業（経営企画担当）	・IT関連の一部で、受注の増加傾向にある取引先が出てきている。
変わらない		食料品製造業（営業統括）	・昨年の狂牛病に始まり、肉類の虚偽表示問題で、肉類への拒否反応があり、ワイン等にも影響が出ている。
		一般機械器具製造業（生産管理担当）	・客先に集中と選択の活発な動きがみられるものの、受注量の増加にはつながらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・仕事の引き合いもやや出てきている。3か月というよりは、夏以降の話が今出てきているので、この2～3か月は変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体関係で、少し仕事が入ってきている。地元の大手企業が一昨年、昨年と続けていた人員整理が一段落している。
		精密機械器具製造業（経営者）	・海外進出が更に進み、受注価格が下落している。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・今年の後半以降に、スーパー関係の新規出店計画が2～3店舗あるので立っているのを期待したいが、3か月後は変わらない。
やや悪くなる		一般機械器具製造業（経営者）	・建設機械部品が、量的に縮小したまま安定する傾向となっている。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・情報化投資計画の実施時期は第2四半期にずれ込むため、4～6月期はさらに厳しくなる。多くの取引先で、リストラや組織再編、統合及びボトルネックの改善が1～3月期に完了し、下期は少し投資が増える。
悪くなる		建設業（経営者）	・受注量、受注価格等が、更にじり貧傾向にある。
		建設業（総務担当）	・現在は役所の年度末で、現場施工があるが、6月以降は厳しくなる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・大手企業で、派遣需要がやや活発化している。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・年度が替わるが、連休前の生産調整で残業はない。時給も変わらず、親会社は4月から人員を調整していく方針である。全体をみても、採用数は増えず、現状維持である。
求人情報誌製作会社（経営者）		・3か月前には、極度に減少していた民間の雇用広告掲載件数が、やや大底を打ち、多少回復基調にある。各地区の営業報告も含めて判断すると、やや良くなっていくが、2～3か月ではまだ変わらない。	

	職業安定所(職員)	・大規模な企業整理は一段落し、求職者の増加は落ち着きつつあるが、中高年を中心に求職者が滞留している。今後企業整理を実施する企業の相談も多く、求職者数は高い水準で推移する。
	職業安定所(職員)	・サービス業の求人は増加しているが、製造業の求人が増加しない。
	職業安定所(職員)	・依然として、製造業が冷え込んでおり、求人件数が減少傾向で推移するなど、先行きの見通しがつかない。
	民間職業紹介機関(経営者)	・自動車関連、特殊技術があるメーカーは何とか落ち着いているが、設備関連メーカーでは、製造業向けの製品が最悪の状態から脱し切れていないので、雇用も厳しい。 ・建築、サービス関係は低水準に止まっている。
やや悪くなる	求人情報誌製作会社(経営者)	・各企業の募集広告は極端に減少している。退職者が出て、欠員を補充しない企業が多く、求人広告数は減少している。
	職業安定所(職員)	・大手電機メーカーを始め、各グループ企業の人員整理で、大量の離職者が発生し、雇用保険の受給者が増加する。人員整理対象の中高齢者は受け皿も少なく、異業種への転換も難しいことから、再就職も極めて困難である。求職者は滞留し、増加の一途をたどる。
	学校[短期大学](就職担当)	・15年3月卒業生対象の合同就職面接会が数回開催されたが、対前年比で参加企業は約20%減少し、求人数は3分の2程度である。求人内容も、製造、情報、介護など専門職が多く、事務、流通関係は今年の半分程度である。
悪くなる	人材派遣会社(経営者)	・年度末で派遣期間満了となり、更新されずに打ち切りとなるケースが相次いでいる。当初は更新が約束されていたが、配置転換による補充で更新しないケースも続出している。企業は人件費の抑制に懸命である。